



最近多発する「複合災害」を 正しく理解しよう

複合災害の代表的な発生パターン

同時発生型



大雨・豪雨

+



土砂災害

災害が
同時発生



被害が瞬時に
拡大・深刻化

時間差発生型



地震

1つの災害が発生



津波

別の災害が
後から発生



原子力
災害

避難作業・復旧作業
中の新たな被害

◆複合災害とは、複数の災害が**同時**または**時間差**で発生する災害

※「埼玉県防災地域計画」を基に広報室にて図として作成

最近、「複合災害」という言葉が注目されています。**複合災害（二重災害）**とは、「**二次災害**」とは異なり、内閣府では「**複数の災害が連続、または同時に発生して被害を拡大させる現象**」、国土交通省では「**複数の性質の異なる災害事象が密接にかかわりあって発生する災害**」と定義されています。

複合災害としての具体例は、2024年に発生した能登半島地震と豪雨、2011年に発生した東日本大震災が挙げられます。

複合災害の発生に備えるために、①ハザードマップで災害リスクを確認する、②国や自治体が進める対策を確認する、③自宅の強靱化（耐震、防水、耐火など）を図る、④家庭での防災対策（備蓄、避難想定など）を検討する、など、私たちができることを確実にやり、「**災害に対して正しく理解し、正しく恐れること**」が重要です。

防災の基本は、「自助」・「共助」・「公助」
地域社会との連携も欠かせません！